

事例3

危険発見プロジェクトで 作業員らの危険の感受性を磨く

石川建設株式会社は、『現地・現物主義』と『現場100回』を貫き、安全パトロールを重点的に実施している。その結果を踏まえ、危険発見力アップの訓練や危険体験実習など、独自の危険発見プロジェクトを推進している。

石川建設株式会社・群馬県

群馬県太田市に本社を構える石川建設株式会社は、昭和15年に旧新田郡で土木建築業の石川組として創業した。

現在は、東京をはじめ5支店および前橋営業所の体制により、関東一円で事業を展開し、地域の街づくりに貢献している。

安全管理の同志の育成に注力

同社では、優れた人材を育成すべく、社員および協力会社の職長らの教育に力を入れており、研修会等の充実を図っている。年間で見ると、まず春には「現場管理者研修会」と「トップ層研修会」を実施している。

「現場管理者研修会では、旧年度の安全衛生の取組みを分析し、その結果を踏まえて、新年度はこれをやるぞという方針などを確立します。トップ層研修会は、協力会社のトップを一堂に集めて実施する。新年度の方針と、それに対する当社の『思い』を発信して、周知徹底します」と説明するのは常務取締役工事本部長。

夏には、「熱中症緊急対策セミナー」「安全大会」「夏季連休前緊急トップ層安全衛生集会」を開催し、災害の防止や安全意識の高揚、安全文化の定着を図っている。

秋には「現場リーダー研修会」と「現場管理者研修会」を、冬には「冬季連休前緊急トップ層安全衛生集会」を開催する。

現場リーダー研修会は、毎年11月に職長を対象に行い、従来のKY活動にリスクアセスメントを取り入れた作業計画書の作成方法などを教育する。修了者には、研修を終えたこ



毎年5月にトップ層研修会を開催



現場管理者研修会終了後に全員で安全唱和



毎年11月に現場リーダー研修会を開催



安全大会で優良者を表彰

とが一目で分かる専用の保護帽と修了証を手渡している。

「平成24年までの現場リーダー研修会修了者は1,100人になりました。研修を終えた人は、いわば安全管理の同志です。この人達が現場で危険の芽を摘み取ってくれます。今後も継続して行いたいと思っています」と工事本部長は意欲を見せる。

効果ある危険発見力テスト

同社の安全パトロールは年間60回（150現場）を超えており、種類としては、店社パトロール、夏季・冬季連休前パトロール、特別防災監パトロールの3つがある。

こうした安全パトロール（現場100回）を通じて、工事本部長は「『現場の危険があぶない』との考えに至りました」と言う。「危険があぶない」は、一般的には「頭痛が痛い」などと屋上屋の言い方だが、工事本部長の言う「危険があぶない」とは、危険に対する認識が薄れている現場への憂いと警告である。

「一番重要なのは、『あぶない』という感性を持つことです。それが安全管理の基本です。ところが、私が現場を回っていて、あぶないと感じる危険個所を、作業員が平然と通

り過ぎていくんです。危険が見えない、危険を感じない、危険に気づかない、危険が分からない。また、あぶないと思っても、それを知らせない、直さない、忠告できない。そういう現実気づきました」。

その実態を、どうすれば具体的に示せるかということから、智恵を絞って立ち上げたのが、「危険発見プロジェクト」である。

仕事に就いて間もない、まだ現場に慣れていない作業員は、危険を感じる感性レベルは高い。ところがベテランになると、大丈夫だと過信し、危険を感じなくなってしまう。「だから、ベテランのほうが恐いのです。そこで、改めて危険を認識させなければいけないと考えたわけです」と工事本部長。

最初に取り組んだのが、危険発見力アップの訓練である。前述の各種研修で、安全パトロールの際に撮影した危険個所の写真をもとに、「危険発見力テスト」を実施することにした。

手すりがない、つまづくものがあるなど、危険個所が全部で17個ある写真を見せてテストを行ったところ、1人で見つける場合は3つ程度しか発見できないが、2人で見つけさせると倍増し、参加者全員では、すべてを発見できたという。1人ひとり気づく危険個所が異なるからだ。

墜落実験などで危険を体験

さらに、同社では社員および作業員に危険を実際に感じ取ってもらうため、危険体験実習を行っている。

例えば、作業員に見立てた土のうを落としてみる墜落実験を行った。この実験により、ブレス（交さ筋かい）のみで幅木がないときには土のうが落ちることや、足場養生シートは飛来・落下災害の防止には役立つが、墜落防止には効果がないことが分かったという。

「養生シートが膨れ上がって、土のうが足場とシートの上に落ちてしまいます。足場からの墜落を防止するためには、幅木が必要だということが証明されました」と工事本部長は語る。

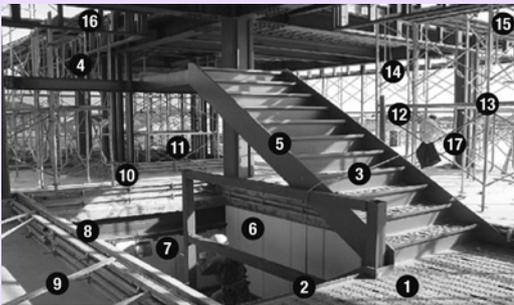
このほか、保護帽・安全帯の落下実験、安全帯の使用体験実習、自動車の死角危険ゾーン体験などを実施している。

「まだまだ、やらなければならないことがたくさんあります。将来的には、現場管理者、現場リーダー（職長）の中から、模範となる“マイスター（職匠）”を育成するのが夢です。彼らが良き指導者となって、優れた技術や安全文化を伝承し、改革していくことを願っています」と抱負を語る。

危険箇所は全部でいくつありますか？(危険発見力テスト)



いくつ見つかりましたか



(回答)



保護帽の落下実験



足場からの墜落実験



自動車の死角危険ゾーン体験